日時　平成二十八年十二月十日
場所　すぎのき貯水池

十二月十日、日曜日。東の空から朝日が昇り始め、空気が温かさを含み始めたころ、今年の杉の木貯水池での探鳥会が始まりました。

今年の探鳥会は鳥の生態に詳しい講師の先生をはじめ動物委員会をご経験なされた先生方に多数、参加していただくことができました。そのため、講習中の会話も盛り上がり生き物に関する知識を大いに得ることのできる探鳥会になりました。

なぜ、そこまで自信をもって言えるのか訳をこれから三つ、ご紹介させていただきます。

一つ目に、**「カワセミを、じっくり観察することができた」**ことです。

「あ～、カワセミを見てみたいなぁ～。」と、淡い期待を抱きつつ参加した私。歩道を歩きながら、講師の先生は、「五時間くらい、待つことができれば、一羽くらいは、見ることができるかもしれません。」私の気持ちは、ガックリ…。しかし、「この川の、この辺りにいそうだなぁ。」と見当をつけて、入っていった川原。えさ場となる川原に着くと、五十メートル先に、羽を休めている、カワセミを確認することができたではないですか！水面に垂れ下がる枝の上で獲物を狙うカワセミを見ると、図鑑で見る写真とそっくり。水面をのぞき込み、じっと餌となる川魚を狙うハンター。陽の光を受けた羽毛は、エメラルドグリーンに輝き、美しい姿を観察することができました。このカワセミとの出会いが、まず一つ目の得点として、挙げることができます。

そして、二つ目は、**「講師の先生方が、面白い小話を交えながら、鳥の特性を学ぶことができたこと」**です。

十二月の早朝は、寒風が吹きすさび、気温の低さと我慢比べをしなければなりません。「鳥の生態を詳しく調べよう！」と目的意識をはっきりもち、探鳥会に参加するのであれば、寒さも苦にはならないで

念願のカワセミ

探鳥会の様子

エナガ

柿を食べに来たツグミ

オオタカ

ハジロカイツブリとミコアイサ

しょうが、環境は恵まれているとは言えません。しかし、今年度は二人の講師の先生方が、観察できた鳥の一羽一羽を望遠レンズで捕らえて実物を確認しながら説明してくださいました。

この一例を述べさせていただきます。「ミコアイサ」を観察した際、別名「パンダガモ」とも呼ばれており「オスの方が、パンダ色できれいな羽毛なのに、茶色をした地味なメスを追いかけているのですよ。」と、自然界の面白い求愛の一面を紹介してくれました。また、「カワラヒワ」には、「体を軽くして飛ぶために、腸を短くし食べても直ぐに排泄して体の中に溜めない。」という特性も教えていただきました。紹介しつくせないほどの、小話に耳を傾けながら、講習を受けることができました。

そして、三つ目に**「絶滅危惧種のカンムリカイツブリを確認することができた」**ことです。カンムリカイツブリの冠羽は夏に比べると冬の方が、大きさは小さくなってしまいます。しかし、水面を凛とした姿で泳ぐ姿は正に王様です。この杉の木貯水池に飛来しえさ場として生息できていることを確認できたことは、大きな収穫になったのではないかと思います。

最後に、講師の先生が杉の木貯水池について教えてくれたことがあります。それは、この貯水池に、多くの人が鳥を探しに訪れるのは、「場所によって、違う種類の鳥たちを楽しむことができるから。」ということです。そして、楽しみながら鳥を見つけるテクニックとして、「こういった場所なら、ここにはこんな鳥がいるだろう。」と、検討をつけてみると、鳥を探しやすいことも教えていただくことができました。

鳥に対する関心が初心者の私でも、楽しみながら参加することができた探鳥会になりました。

（浅科小　速水　英典）

アンケート結果

・念願のカワセミが見られてよかったです。講師の先生方に説明をしていただき、生態も含めて教えていただきとても面白かったです。

・多くの鳥が観察できて楽しかった。ミコアイサやカワセミがきれいでした。ありがとうございました。

・晴れた日に行えたことはよかった。

・初めてカワセミを発見することができました。肉眼で見てカワセミはあんなにも小さいんだと確認できたことがうれしかった。